

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-04-0007_改1
提出年月日	2021年10月28日

工事計画に係る説明資料

原子炉冷却系統施設のうち

残留熱除去設備 (3.5.1 残留熱除去系)

(本文)

2021年10月

東北電力株式会社

申請範囲

3. 原子炉冷却系統施設
 - 3.5 残留熱除去設備
 - 3.5.1 残留熱除去系
 - (2) 熱交換器（常設）
 - ・残留熱除去系熱交換器
 - (3) ポンプ（常設）
 - ・残留熱除去系ポンプ
 - (5) ろ過装置（常設）
 - ・残留熱除去系ストレーナ
 - (6) 安全弁及び逃がし弁（常設）
 - (7) 主要弁（常設）
 - (8) 主配管（常設）

3.5 残留熱除去設備

3.5.1 残留熱除去系

(2) 熱交換器 (常設)

		変更前		変更後	
名称		残留熱除去系熱交換器(A) ^{*1}	残留熱除去系熱交換器(B) ^{*1}	残留熱除去系熱交換器(A) ^{*2}	残留熱除去系熱交換器(B) ^{*3}
種類	—	横置U字管式			
容量 (設計熱交換量)	MW/個	□以上 ^{*4} (8.84 ^{*5,*6})			
管側	最高使用圧力	MPa	3.73 ^{*6}		
	最高使用温度	℃	186		
胴側	最高使用圧力	MPa	1.18 ^{*6}		
	最高使用温度	℃	70		
伝熱面積	m ² /個	□			
主要寸法	管側	胴内径 ^{*7}	mm	1300 ^{*5}	
		胴板厚さ ^{*8}	mm	□ ^{*9} (25.0 ^{*5})	
		鏡板厚さ ^{*10}	mm	□ ^{*9} (27.0 ^{*5})	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	1300.0 ^{*5,*9} (鏡板の内面における長径)	
			mm	325.0 ^{*5,*9} (鏡板の内面における短径の2分の1)	
		管台外径 (水室入口)	mm	425.4 ^{*5,*9}	
		管台厚さ (水室入口)	mm	□ ^{*9} (46.0 ^{*5,*9})	
	胴側	管台外径 (水室出口)	mm	425.4 ^{*5,*9}	
		管台厚さ (水室出口)	mm	□ ^{*9} (46.0 ^{*5,*9})	
		胴フランジ厚さ	mm	170.0 ^{*9} (175.0 ^{*4,*5})	
		胴内径 ^{*11}	mm	1300 ^{*5}	
		胴板厚さ ^{*12}	mm	□ ^{*9} (15.0 ^{*5})	
		鏡板厚さ ^{*13}	mm	□ ^{*9} (15.0 ^{*5})	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	1300.0 ^{*5,*9} (鏡板の内面における長径)	
mm	325.0 ^{*5,*9} (鏡板の内面における短径の2分の1)				
管台外径 (胴体入口)	mm	355.6 ^{*5,*9}			
管台厚さ (胴体入口)	mm	□ ^{*9} (11.1 ^{*5,*9})			
管台外径 (胴体出口)	mm	355.6 ^{*5,*9}			
管台厚さ (胴体出口)	mm	□ ^{*9} (11.1 ^{*5,*9})			

変更なし

(次頁へ続く)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

(前頁からの続き)

			変 更 前		変 更 後
主要寸法	管 板 厚 さ	mm	□ * ⁹ (166.0 * ⁵)		変更なし
	伝 熱 管 外 径	mm	□ * ⁵		
	伝 熱 管 厚 さ	mm	□		
	全 長	mm	7910 * ⁵		
材 料	側	管 洞 板	—	SGV49	
		鏡 板	—	SGV49	
		洞 フ ラ ン ジ	—	SFVC2B * ⁹	
	洞 側	洞 板	—	SGV49	
		鏡 板	—	SGV49	
	管 板	—	SGV49		
	伝 熱 管	—	SUS316LTB		
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	残留熱除去系熱交換器(A) 残留熱除去系A系 * ⁴	残留熱除去系熱交換器(B) 残留熱除去系B系 * ⁴	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. 15. 00m * ⁴	原子炉建屋 O. P. 15. 00m * ⁴	
所	溢水防護上の区画番号	—	—		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器」と記載。

*2 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(代替循環冷却系, 残留熱除去系)及び原子炉補機冷却設備(原子炉補機代替冷却水系)並びに原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(原子炉格納容器下部注水系, 代替循環冷却系, 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード), 残留熱除去系(サプレッションプール水冷却モード))と兼用。

*3 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(残留熱除去系)及び原子炉補機冷却設備(原子炉補機代替冷却水系)並びに原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード), 残留熱除去系(サプレッションプール水冷却モード))と兼用。

*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

*5 : 公称値を示す。

*6 : S I 単位に換算したものである。

*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載。

*8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴部厚さ」と記載。

*9 : 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 平成3年6月19日付け3資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-3-1 残留熱除去系熱交換器の強度計算書」による。

*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載。

*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。

*12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。

*13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体鏡板厚さ」と記載。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

(3) ポンプ (常設)

			変更前			変更後			
名 称			*1 残留熱除去系ポンプ(A), (B)		*1 残留熱除去系ポンプ(C)	*2 残留熱除去系ポンプ(A), (B)		*3 残留熱除去系ポンプ(C)	
ポンプ	種 類	—	ターボ形						
	容 量*4	m3/h/個	□以上*5(1160*6)						
	揚 程*7	m	□以上*5(105*6)		□以上*5(105*6)				
	最 高 使 用 圧 力	MPa	(吸込側) 1.37*5 (吐出側) 3.73*5						
	最 高 使 用 温 度	℃	186*5			100*5			
	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	489*5, *6					
		吐 出 内 径	mm	333.4*5, *6					
		ケ ー シ ン グ 外 径	mm	1238*5, *6					
		ケ ー シ ン グ 厚 さ	mm	□*5(19*5, *6)					
		高 さ	mm	5550*6, *8					
	材 料	ケ ー シ ン グ	—	□					
		ケ ー シ ン グ カ バ ー	—	□					
	個 数	—	3						
	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	*5 残留熱除去系ポンプ(A) 残留熱除去系A系		*5 残留熱除去系ポンプ(B) 残留熱除去系B系		*5 残留熱除去系ポンプ(C) 残留熱除去系C系	
設 置 床		—	*5 原子炉建屋 O. P. -8. 10m		*5 原子炉建屋 O. P. -8. 10m		*5 原子炉建屋 O. P. -8. 10m		
溢水防護上の区画番号		—	—						
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	—			R-B3F-3 床上 0.06m以上		R-B3F-6 床上 0.04m以上	R-B3F-7 床上 0.03m以上
原 動 機	種 類	—	誘導電動機						
	出 力	kW/個	540						
	個 数	—	3						
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*5						
			変更前			変更後			
			変更なし			変更なし			
			変更なし			変更なし			

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ポンプ」と記載。

*2 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却モード), 残留熱除去系 (サブプレッションプール水冷却モード)) と兼用。

*3 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) と兼用。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載。

*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*6 : 公称値を示す。

*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載。

*8 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成3年6月19日付け3資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「第3-3-4図 残留熱除去系ポンプ構造図」による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

(5) ろ過装置 (常設)

			変更前			変更後		
名称			残留熱除去系ストレーナ (A) ^{*1}	残留熱除去系ストレーナ (B) ^{*1}	残留熱除去系ストレーナ (C) ^{*1}	残留熱除去系ストレーナ (A) ^{*2}	残留熱除去系ストレーナ (B) ^{*3}	残留熱除去系ストレーナ (C) ^{*4}
種類	—		カセット形			変更なし		
容量	m ³ /h/組 ^{*5}		[] 以上 ^{*6,*7} (1160 ^{*8})			変更なし		
最高使用圧力	kPa ^{*9}		—[427] ^{*10,*11}			変更なし —[854] ^{*11,*12}		
最高使用温度	℃		104 ^{*13}			変更なし 200 ^{*12,*13}		
主要寸法	外径	mm	[]			変更なし		
	長さ	mm						
	ポケット幅	mm						
	ポケット深さ	mm						
	ポケット数量	—						
材料	外筒	—	[]			変更なし		
	多孔プレート	—						
個数	—		1 ^{*15}	1 ^{*15}	1 ^{*15}	1 ^{*15}	1 ^{*15}	1 ^{*15}
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	^{*6} 残留熱除去系ストレーナ(A) 残留熱除去系A系		^{*6} 残留熱除去系ストレーナ(B) 残留熱除去系B系		^{*6} 残留熱除去系ストレーナ(C) 残留熱除去系C系	
	設置床	—	^{*6} 原子炉格納容器内 O. P. -8. 10m		^{*6} 原子炉格納容器内 O. P. -8. 10m		^{*6} 原子炉格納容器内 O. P. -8. 10m	
	溢水防護上の区画番号	—	—					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—					

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ストレーナ」と記載。

*2 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (代替循環冷却系, 残留熱除去系), 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器下部注水系, 代替循環冷却系, 残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却モード), 残留熱除去系 (サブプレッションプール水冷却モード)) と兼用。

*3 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却モード), 残留熱除去系 (サブプレッションプール水冷却モード)) と兼用。

*4 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) と兼用。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「m³/h」と記載。

*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

*7 : 残留熱除去系ポンプ1台の定格容量を示す。

*8 : 公称値を示す。

*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「—」と記載。

*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「—[427kPa]」と記載。

*11 : 残留熱除去系ストレーナは, その機能及び構造上の耐圧機能を必要としないため, 最高使用圧力を設定しないが, ここでは, サプレッションチェンバの最高使用圧力を [] 内に示す。

*12 : 重大事故等時における使用時の値。

*13 : サプレッションチェンバの最高使用温度を示す。

*14 : 1列あたりのポケット数×列数を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には独立した3系列を合わせた「3」を主要寸法の異なるストレーナごとに記載。残留熱除去系ストレーナは独立した3系列のそれぞれで主要寸法の異なるストレーナ1個ずつを1組として使用する。

(6) 安全弁及び逃がし弁 (常設)

		変 更 前*1		変 更 後		
名 称		E11-F048A, B	E11-F048C	E11-F048A*2	E11-F048B*3	E11-F048C*4
種 類	—	平衡型		変更なし		
吹 出 圧 力	MPa	3.73				
吹 出 量	kg/h/個	24390*5	18280*5			
主 要 寸 法	呼 び 径	—	25A			
	の ど 部 の 径	mm	□*5			
	弁 座 口 の 径	mm	24*5			
	リ フ ト	mm	□			
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
駆 動 方 法	—	—				
個 数	—	3				
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	E11-F048A, B, C 残留熱除去系			
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. -8.10m			
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- *2 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (代替循環冷却系, 残留熱除去系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器下部注水系, 代替循環冷却系, 残留熱除去系 (格納容器スプレー冷却モード), 残留熱除去系 (サプレッションプール水冷却モード)) と兼用。
- *3 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (代替循環冷却系, 残留熱除去系 (格納容器スプレー冷却モード), 残留熱除去系 (サプレッションプール冷却水モード)) と兼用。
- *4 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系) と兼用。
- *5 : 公称値を示す。

			変更前*1	変更後
名称			E11-F050A, B	変更なし
種類	類	—	平衡型	
吹出圧力		MPa	8.62	
吹出量		kg/h/個	18620*2	
主要寸法	呼び径	—	20A	
	のど部の径	mm	 *2	
	弁座口の径	mm	24*2	
	リフト	mm		
材料	弁箱	—	SF50A	
駆動方法		—	—	
個数		—	2	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E11-F050A, B 残留熱除去系	
	設置床	—	原子炉建屋 O.P. -8.10m	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2 : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前*1	変更後
名 称			E11-F054A, B	変更なし
種 類	—		平衡型	
吹 出 圧 力	MPa		1.37	
吹 出 量	kg/h/個		10970*2	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	25A	
	の ど 部 の 径	mm	<input type="text" value="□"/> *2	
	弁 座 口 の 径	mm	24*2	
	リ フ ト	mm	<input type="text" value="□"/>	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	
駆 動 方 法		—	—	
個 数		—	2	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	E11-F054A, B 残留熱除去系	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. -8.10m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2 : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

(7) 主要弁 (常設)

		変更前		変更後		
名称 ^{*1}		E11-F003A, B ^{*2}		変更なし		
種類	—	止め弁				
最高使用圧力	MPa	3.73 ^{*3}				
最高使用温度	℃	186 ^{*3}				
主要寸法	呼び径	— ^{*4}	350A ^{*5}			
	弁箱厚さ	mm	□			^{*3}
	弁ふた厚さ	mm	□			^{*3}
材料	弁箱	—	SCPH2			
	弁ふた	—	SCPH2			
駆動方法		—				電気作動
個数		—		2		
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	^{*3} E11-F003A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F003B 残留熱除去系B系		
	設置床	—	^{*6} 原子炉建屋 O. P. 15.00m	^{*6} 原子炉建屋 O. P. 15.00m		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		R-1F-1	
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—			床上0.58m以上	
				R-1F-11	床上0.59m以上	

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前			変 更 後					
名 称 ^{*1}		E11-F004A, B, C ^{*2}			変更なし					
種 類	—	止め弁								
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62 ^{*3}								
最 高 使 用 温 度	℃	302 ^{*3}								
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}	250A ^{*5}							
	弁 箱 厚 さ	mm	□	^{*3}						
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□	^{*3}						
材 料	弁 箱	—	SCPH2							
	弁 ふ た	—	SCPH2							
	弁 体	—	SCPH2 ^{*3}							
駆 動 方 法		—						電気作動		
個 数		—						3		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	E11-F004A ^{*3} 残留熱除去系A系	E11-F004B ^{*3} 残留熱除去系B系	E11-F004C ^{*3} 残留熱除去系C系					
	設 置 床	—	原子炉建屋 ^{*6} O. P. 11. 50m	原子炉建屋 ^{*6} O. P. 11. 50m	原子炉建屋 ^{*6} O. P. 11. 50m					
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			R-MB1F-1	R-MB1F-3	R-MB1F-3		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—				床上0.00m以上	床上0.53m以上	床上0.53m以上		

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004A, B, C」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前			変 更 後		
名 称 ^{*1}		E11-F005A, B, C ^{*2}			変更なし		
種 類		逆止め弁					
最 高 使 用 圧 力		MPa 8.62 ^{*3}					
最 高 使 用 温 度		℃ 302 ^{*3}					
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4} 250A ^{*5}					
	弁 箱 厚 さ	mm ^{*3}					
	弁 ふ た 厚 さ	mm ^{*3}					
材 料	弁 箱	— SCPH2					
	弁 ふ た	— SCPH2					
	弁 体	— S25C ^{*3}					
駆 動 方 法		— 空気作動（窒素作動）					
個 数		— 3					
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	— ^{*3} E11-F005A 残留熱除去系A系					
	設 置 床	— ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m			— ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			■		

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F005A, B, C」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変更前*		変更後				
名称		E11-F008A, B		変更なし				
種類	—	止め弁						
最高使用圧力	MPa	3.73						
最高使用温度	℃	186						
主要寸法	呼び径	—	350A					
	弁箱厚さ	mm						
	弁ふた厚さ	mm						
				19.0以上				
材料	弁箱	—	SCPH2		変更なし			
	弁ふた	—	SCPH2					
駆動方法		—	電気作動					
個数		—	2					
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E11-F008A 残留熱除去系A系	E11-F008B 残留熱除去系B				
	設置床	—	原子炉建屋 O.P. 15.00m	原子炉建屋 O.P. 15.00m				
	溢水防護上の 区画番号	—	—		R-1F-1	R-1F-11		
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—			床上0.58m以上	床上0.59m以上		

注記* : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

		変更前		変更後		
名称 ^{*1}		E11-F010A, B ^{*2}		変更なし		
種類	—	止め弁				
最高使用圧力	MPa	3.73 ^{*3}				
最高使用温度	℃	186 ^{*3}				
主要寸法	呼び径	— ^{*4}	250A ^{*5}			
	弁箱厚さ	mm				^{*3}
	弁ふた厚さ	mm				^{*3}
材料	弁箱	—	SCPH2			
	弁ふた	—	SCPH2			
駆動方法		—				電気作動
個数		—		2		
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	^{*3} E11-F010A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F010B 残留熱除去系B系		
	設置床	—	^{*6} 原子炉建屋 O. P. 15.00m	^{*6} 原子炉建屋 O. P. 15.00m		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		R-1F-9	
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—			床上0.00m以上	
				R-1F-8	床上2.66m以上	

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F010A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変更前		変更後		
名称 ^{*1}		E11-F011A, B ^{*2}		変更なし		
種類	—	止め弁				
最高使用圧力	MPa	3.73 ^{*3}				
最高使用温度	℃	186 ^{*3}				
主要寸法	呼び径	— ^{*4}	100A ^{*5}			
	弁箱厚さ	mm				^{*3}
	弁ふた厚さ	mm				^{*3}
材料	弁箱	—	SCPH2			
	弁ふた	—	SCPH2			
駆動方法		—				電気作動
個数		—		2		
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	^{*3} E11-F011A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F011B 残留熱除去系B系		
	設置床	—	^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m	^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		R-B3F-10	
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—			床上6.40m以上	

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F011A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「100」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後			
名 称 ^{*1}		E11-F012A, B ^{*2}		変更なし			
種 類	—	止め弁					
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73 ^{*3}					
最 高 使 用 温 度	℃	186 ^{*3}					
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}	300A ^{*5}				
	弁 箱 厚 さ	mm	□			^{*3}	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□			^{*3}	
材 料	弁 箱	—	SCPH2				
	弁 ふ た	—	SCPH2				
駆 動 方 法		—				電気作動	
個 数		—				2	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	^{*3} E11-F012A 残留熱除去系A系			^{*3} E11-F012B 残留熱除去系B系	
	設 置 床	—	^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m			^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—				
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—					

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F012A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後		
名 称 ^{*1}		E11-F015A, B ^{*2}			
種 類	—	止め弁			
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62 ^{*3}			
最 高 使 用 温 度	℃	302 ^{*3}			
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}	350A ^{*5}		
	弁 箱 厚 さ	mm	 ^{*3}		
	弁 ふ た 厚 さ	mm	 ^{*3}		
材 料	弁 箱	—	SCPH2		
	弁 ふ た	—	SCPH2		
	弁 体	—	SCPH2 ^{*3}		
駆 動 方 法	—	電気作動			
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} E11-F015A 残留熱除去系A系 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} E11-F015B 残留熱除去系B系 </td> </tr> </table>	^{*3} E11-F015A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F015B 残留熱除去系B系
	^{*3} E11-F015A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F015B 残留熱除去系B系			
	設 置 床	—	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m </td> </tr> </table>	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m
	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m			
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—				

変更なし



注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F015A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後		
名 称 ^{*1}		E11-F016A, B ^{*2}		変更なし		
種 類	—	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62 ^{*3}				
最 高 使 用 温 度	℃	302 ^{*3}				
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}	350A ^{*5}			
	弁 箱 厚 さ	mm				^{*3}
	弁 ふ た 厚 さ	mm				^{*3}
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
	弁 体	—	SCPH2 ^{*3}			
駆 動 方 法		—	電気作動			
個 数		—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	E11-F016A 残留熱除去系A系 ^{*3}	E11-F016B 残留熱除去系B系 ^{*3}		
	設 置 床	—	原子炉建屋 ^{*6} O. P. -8.10m	原子炉建屋 ^{*6} O. P. -8.10m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			
			R-B3F-10	R-B3F-10		
			床上6.40m以上	床上6.40m以上		

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F016A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変更前		変更後		
名称 ^{*1}		E11-F018A, B ^{*2}		E11-F018A	E11-F018B	
種類	—	止め弁		変更なし	変更なし	
最高使用圧力	MPa	10.40 ^{*3}				
最高使用温度	℃	302 ^{*3}				
主要寸法	呼び径	300A ^{*5}				
	弁箱厚さ	mm	<input type="text"/> ^{*3}			
	弁ふた厚さ	mm	<input type="text"/> ^{*3}			
材料	弁箱	SCPH2				
	弁ふた	SCPH2				
	弁体	S25C ^{*3}				
駆動方法	—	電気作動				変更なし
個数	—	2		変更なし	変更なし	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E11-F018A 残留熱除去系A系 ^{*3}			E11-F018B 残留熱除去系B系 ^{*3}
	設置床	—	原子炉建屋 O.P. -8.10m ^{*6}			原子炉建屋 O.P. -8.10m ^{*6}
	溢水防護上の 区画番号	—	—			
溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—	—		R-B3F-10	R-B3F-10	
				床上6.40m以上	床上6.40m以上	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F018A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後		
名 称 ^{*1}		E11-F019A, B ^{*2}			
種 類	—	逆止め弁			
最 高 使 用 圧 力	MPa	10.40 ^{*3}			
最 高 使 用 温 度	℃	302 ^{*3}			
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}	300A ^{*5}		
	弁 箱 厚 さ	mm	 ^{*3}		
	弁 ふ た 厚 さ	mm	 ^{*3}		
材 料	弁 箱	—	SCPH2		
	弁 ふ た	—	SCPH2		
	弁 体	—	SCPH2 ^{*3}		
駆 動 方 法	—	空気作動（窒素作動）			
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} E11-F019A 残留熱除去系A系 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} E11-F019B 残留熱除去系B系 </td> </tr> </table>	^{*3} E11-F019A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F019B 残留熱除去系B系
	^{*3} E11-F019A 残留熱除去系A系	^{*3} E11-F019B 残留熱除去系B系			
	設 置 床	—	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> ^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m </td> </tr> </table>	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m
	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m	^{*3} 原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m			
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			

変更なし



注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F019A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前	変 更 後	
名 称 ^{*1}		E11-F021 ^{*2}	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62 ^{*3}		
最 高 使 用 温 度	°C	302 ^{*3}		
主 要 寸 法	呼 び 径	— ^{*4}		100A ^{*5}
	弁 箱 厚 さ	mm		<input type="text"/> ^{*3}
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<input type="text"/> ^{*3}
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		SCPH2
	弁 体	—		S25C ^{*3}
駆 動 方 法		—		電気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		E11-F021 ^{*3} 残留熱除去系
	設 置 床	—		原子炉建屋 ^{*6} O. P. 15. 00m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F021」と記載。記載内容は、設計図書による。

*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「100」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

		変 更 前	変 更 後	
名 称*1		E11-F022*2	変更なし	
種 類	—	逆止め弁		
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62*3		
最 高 使 用 温 度	℃	302*3		
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4		100A*5
	弁 箱 厚 さ	mm		<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; display: inline-block;"></div> *3
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; display: inline-block;"></div> *3
材 料	弁 箱	—		SCPH2
	弁 ふ た	—		S25C
	弁 体	—		S25C*3
駆 動 方 法		—		
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	E11-F022 残留熱除去系*3	
	設 置 床	—	原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m*3	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	<div style="background-color: yellow; width: 20px; height: 10px; display: inline-block;"></div>	

- 注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
- *2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F022」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
- *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「100」と記載。記載内容は、設計図書による。

		変 更 前			変更後	
名 称*1		E11-F001A, B*2		E11-F001C*2	—*7	
種 類	—	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	1. 37*3				
最 高 使 用 温 度	°C	186*3	104*3			
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	500A*5			
	弁 箱 厚 さ	mm		*3		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		*3		
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
駆 動 方 法		—	電気作動			
個 数		—	3			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	*3 E11-F001A 残留熱除去系 A系	*3 E11-F001B 残留熱除去系 B系		*3 E11-F001C 残留熱除去系 C系
	設 置 床	—	*6 原子炉建屋 O. P. -8. 10m	*6 原子炉建屋 O. P. -8. 10m		*6 原子炉建屋 O. P. -8. 10m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—				

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F001A, B, C」と記載。記載内容は、設計図書による。

*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「500」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

*7 : 記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

(8) 主配管 (常設)

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
—						*3 原子炉圧力容器 ～ 残留熱除去系原子炉停止時冷却モード吸込配管分岐点 *3 残留熱除去系原子炉停止時冷却モード吸込配管分岐点 ～ E11-F014A, B 3. 原子炉冷却系統施設 3.1 原子炉冷却材再循環設備 3.3.1 原子炉再循環系 (3) 主配管 (常設) に記載する。					
E11-F014A ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-33A)	8.62*5	302	355.6	(23.8)	STS42	変更なし	変更なし 10.34*7	変更なし 315*7	変更なし		
			*6 355.6	*6 (23.8)	*6 STS42						
—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-33A) 7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。					
残留熱除去系	*4 原子炉格納容器配管貫通部 (X-33A) ～ サプレッションチェンバ出口配管A系合流点	1.37*5	355.6	(11.1)	STS42 STS410	変更なし					
			*6 355.6	*6 (11.1)	*6 STS42						
			355.6	(11.1)	*9 STS410						
			216.3*10	(8.2)*10	*9 STS410						
*11 残留熱除去系ストレーナ(A) ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214A)	-[427] (kPa)	104	508.0 508.0 508.0	*10 (9.5) *10 (9.5) *10 (9.5)	*12 SM41C	*13 残留熱除去系ストレーナ(A) ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214A)	変更なし -[854]*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし		
—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214A) 7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。					
*14 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214A) ～ サプレッションチェンバ出口配管A系合流点	427*5 (kPa)	104	*6 508.0	*6 *15 (9.5)	*6 SGV42	*13 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214A) ～ サプレッションチェンバ出口配管A系合流点	変更なし 854*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし		
			*6 508.0	*6 *15 (9.5)	*6 SGV42						
	1.37*5	186	508.0	*15 (9.5)	*16 SGV410	変更なし					
			*6 508.0	*6 *15 (9.5)	*6, *16 SGV410						

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
*14 サプレッションチェンバ出口配管 A 系合流点 ～ 代替循環冷却系吸込配管分岐点	1.37*5	186	508.0	□*15 (9.5)	*16 SGV410	*13 サプレッションチェンバ出口配管 A 系合流点 ～ 代替循環冷却系吸込配管分岐点	1.37	186	変更なし		
			508.0	□*15 (9.5)					508.0	(9.5)	STS410
			355.6	□*15 (11.1)	*16 SGV410			508.0	(9.5)		
			508.0	□*15 (9.5)	*16 SGV410			508.0	(9.5)		
			—					267.4	(9.3)		
*17 残留熱除去系ポンプ(A) ～ 代替循環冷却系注入配管合流点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	*9 STS410	*18 残留熱除去系ポンプ(A) ～ 代替循環冷却系注入配管合流点	3.73	186	変更なし		
			*6 355.6	*6 (11.1)	*6,*9 STS410						
			—					355.6	(11.1)		
*17 代替循環冷却系注入配管合流点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点	3.73*5	186	*6 355.6	*6 (11.1)	*6,*9 STS42 STS410	*13 代替循環冷却系注入配管合流点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点	3.73	186	355.6	(11.1)	STS410
			355.6	(11.1)	*9 STS42 STS410						
			355.6	(11.1)							
			355.6	(11.1)							
			355.6	(11.1)	STS42			165.2	(7.1)		
*17 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*13 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)	3.73	186	変更なし		
			*6 355.6	*6 (11.1)	*6 STS42						

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
残留熱除去系	*19 残留熱除去系熱交換器(A) ～ 残留熱除去系熱交換器代替循環冷却系出口配管分岐点	3.73*5	186	*6 355.6	*6 (11.1)	*6 STS42	*13 残留熱除去系熱交換器(A) ～ 残留熱除去系熱交換器代替循環冷却系出口配管分岐点	変更なし	変更なし		
				355.6	(11.1)	STS42			355.6 / 355.6 /	(11.1) / (11.1)	変更なし
				355.6	(11.1)	STS42					
	*19 残留熱除去系熱交換器代替循環冷却系出口配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*13 残留熱除去系熱交換器代替循環冷却系出口配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点	変更なし	変更なし		
	*20 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*21 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点	変更なし	変更なし		
	*19 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードA系注入配管分岐点	3.73*5	186	355.6 /	(11.1) /	STS42	*22 残留熱除去系熱交換器(A)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードA系注入配管分岐点	変更なし	変更なし		
				355.6 /	(11.1) /	*9 STS42 STS410					
				*6 355.6	*6 (11.1)	*6,*9 STS42 STS410					
				355.6 /	(11.1) /	*9 STS410					
				216.3*10	(8.2)*10						
355.6 /	(11.1) /	*9 STS410									
355.6 /	(11.1) /										
318.5	(10.3)										

変更前							変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料		
残留熱除去系	*19 原子炉停止時冷却モードA系 注入配管分岐点 ～ ドライウェルスプレイ注入配 管A系分岐点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	*9 STS410	*23 原子炉停止時冷却モードA系 注入配管分岐点 ～ ドライウェルスプレイ注入配 管A系分岐点	3.73*5	186	変更なし			
				355.6	(11.1)	*9							
				355.6	(11.1)	*9 STS410							
				267.4	(9.3)								
	*19 ドライウェルスプレイ注入配 管A系分岐点 ～ 低圧代替注水系A系注入配管 合流点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	*9 STS410	*24 ドライウェルスプレイ注入配 管A系分岐点 ～ 低圧代替注水系A系注入配管 合流点	3.73*5	186	変更なし			
				355.6	(11.1)	*9							
	*19 低圧代替注水系A系注入配管 合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31A)	3.73*5	186	267.4	(9.3)	*9	*25 低圧代替注水系A系注入配管 合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31A)	3.73*5	186	267.4	(9.3)	*9 STS410	変更なし
				267.4	(9.3)	*9							
	*19 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31A) ～ 原子炉压力容器	8.62*5	302	267.4	(18.2)	*9 STS42 STS410	*25 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31A) ～ 原子炉压力容器	10.34*7	315*7	変更なし			
				267.4	(18.2)	*6 STS42							
	*26 原子炉停止時冷却モードA系 注入配管分岐点 ～ サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点	3.73*5	186	318.5	(10.3)	*9 STS42 STS410	*27 原子炉停止時冷却モードA系 注入配管分岐点 ～ サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点	3.73*5	186	変更なし			
				318.5	(10.3)								
318.5				(10.3)	STS42								
*26 サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点 ～ サプレッションチェンバスポ レイ注入配管A系分岐点	3.73*5	186	318.5	(10.3)	*9 STS42	*28 サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点 ～ サプレッションチェンバスポ レイ注入配管A系分岐点	3.73*5	186	変更なし				

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	
残留熱除去系	*26 サプレッションチェンバースプレイ注入配管A系分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32A)	3.73*5	186	318.5	(10.3)	STS42	変更なし					
	—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32A)	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部に記載する。				
	*26 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32A) ～ E11-F020A	10.40*5	302	318.5	(25.4)	STS42	変更なし	変更なし	変更なし 315*7	変更なし		
	—						*3 E11-F020A ～ 残留熱除去系原子炉停止時冷却モードA系注入配管合流点	3. 原子炉冷却系統施設 3.1 原子炉冷却材再循環設備 3.3.1 原子炉再循環系 (3) 主配管 (常設) に記載する。				
	—						*3 残留熱除去系原子炉停止時冷却モードA系注入配管合流点 ～ 原子炉圧力容器					
*29 ドライウェルスプレイ注入配管A系分岐点 ～ 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系A系注入配管合流点	3.73*5	186	267.4	(9.3)	*9 STS410	*30 ドライウェルスプレイ注入配管A系分岐点 ～ 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系A系注入配管合流点	変更なし					
			267.4 / 267.4 / 114.3	(9.3) / (9.3) / (6.0)	*9 STS410							
—						3.73	186	267.4	(9.3)	*31 STS410		
*29 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系A系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30A) (次頁へ続く)	—						*30 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系A系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30A) (次頁へ続く)	3.73	186	267.4 / 267.4 / 165.2	(9.3) / (9.3) / (7.1)	STS410

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	
残留熱除去系	(前頁からの続き) 原子炉格納容器代替スプレイ 冷却系A系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30A)	3.73*5	186	267.4	(9.3)	STS410*9	(前頁からの続き) 原子炉格納容器代替スプレイ 冷却系A系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30A)	変更なし				
	—						原子炉格納容器配管貫通部 (X-30A)*8	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。				
	—						ドライウェルスプレイ管*32	7. 原子炉格納施設 7.3 圧力低減設備その他の安全設備 (原子炉格納容器安全設備) (6). a. 原子炉格納容器スプレイ冷却系 ヌ 主配管 (常設) に記載する。				
	ドライウェルスプレイ管入口 配管A系分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-37)*33	3.73*5	186	114.3	(6.0)	STS410*9	変更なし					
				114.3	(6.0)	STS410*9						
				114.3	(6.0)							
	—	—	—	—	—							
	原子炉格納容器配管貫通部 (X-37)～ E11-F022*33	8.62*5	302	114.3	(11.1)	STS410*9	変更なし					
	E11-F022 ～ 原子炉圧力容器*33	8.62*5	302	114.3*6	(11.1)*6	STS410*6,*9	変更なし					
				114.3	(11.1)	STS410*9						
165.2 ／ 114.3				(14.3) ／ (11.1)	STS410*9							
サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215A)*34	3.73*5	186	318.5	(10.3)	STS42	サプレッションプール水冷却 モードA系戻り配管分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215A)*35	変更なし		変更なし			
427*5 (kPa)	104	318.5	(10.3)	STS42 STS410*9	変更なし 854*7 (kPa)		変更なし 200*7					
—						原子炉格納容器配管貫通部 (X-215A)*8	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。					

変更前						変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料		
残留熱除去系	*34 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215A) ~ サプレッションプール水冷却配管A系開放端	427*5 (kPa)	104	318.5	(10.3)	STS42	残留熱除去系	*35 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215A) ~ サプレッションプール水冷却配管A系開放端	変更なし 854*7 (kPa)	変更なし 200*7			
	*36 サプレッションチェンバスプレイ注入配管A系分岐点 ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213A)	3.73*5	186	152.3	□*15 (25.0)	SF50A		*28 サプレッションチェンバスプレイ注入配管A系分岐点 ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213A)	変更なし	変更なし 200*7	変更なし		
				114.3	□*15 (6.0)	SF50A							
				114.3	(6.0)	STS42							
			104	114.3	(6.0)	STS42							
	—							*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213A) 7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部に記載する。					
	—							*32 サプレッションチェンバスプレイ管 7. 原子炉格納施設 7.3 圧力低減設備その他の安全設備 (原子炉格納容器安全設備) (6). a. 原子炉格納容器スプレイ冷却系 ヌ 主配管 (常設) に記載する。					
	*10 E11-F029A ~ 残留熱除去系ポンプ (A) 入口配管合流点	1.37*5	186	216.3	(8.2)	STS410		*9	変更なし				
	*10 使用済燃料プールA系入口配管分岐点 ~ E11-F030A	3.73*5	186	216.3	(8.2)	STS410		*9	変更なし				
	*4 E11-F014B ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-33B)	8.62*5	302	355.6	(23.8)	STS42		*6	変更なし	10.34*7	315*7	変更なし	
355.6				(23.8)	STS42								

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
—						*8 7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部に記載する。					
*4 原子炉格納容器配管貫通部 (X-33B) ~ サプレッションチェンバ出口配管B系合流点											
						1.37*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*9
								355.6	(11.1)	STS42	
								355.6	(11.1)	STS410	
216.3*10	(8.2)*10	STS410									
*11 残留熱除去系ストレーナ(B) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214B)						*18 残留熱除去系ストレーナ(B) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214B)					
427*5 (kPa)						変更なし -[854]*7 (kPa)					
104						200*7					
—						*8 7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部に記載する。					
*14 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214B) ~ サプレッションチェンバ出口配管B系合流点											
						1.37*5	186	508.0	*15 (9.5)	SGV42	*16
								508.0	*15 (9.5)	SGV42	
								508.0	*15 (9.5)	SGV410	
508.0	*15 (9.5)	SGV410									
*14 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)						*18 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)					
1.37*5						200*7					
186						200*7					
*14 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)						*18 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)					
1.37*5						200*7					
186						200*7					
*14 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)						*18 サプレッションチェンバ出口配管B系合流点 ~ 残留熱除去系ポンプ(B)					
1.37*5						200*7					
186						200*7					

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	
残留熱除去系	*17 残留熱除去系ポンプ(B) ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	*9 STS42 STS410	*18 残留熱除去系ポンプ(B) ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点	3.73*5	186	変更なし		
				*6 355.6	*6 (11.1)	*6,*9 STS42 STS410						
				355.6	(11.1)	STS42						
				355.6	(11.1)	STS42						
	*17 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(B)	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*18 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(B)	3.73*5	186	変更なし		
				*6 355.6	*6 (11.1)	*6 STS42						
	*19 残留熱除去系熱交換器(B) ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点	3.73*5	186	*6 355.6	*6 (11.1)	*6 STS42	*18 残留熱除去系熱交換器(B) ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点	3.73*5	186	変更なし		
				355.6	(11.1)	STS42						
				355.6	(11.1)	STS42						
	*20 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*37 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点	3.73*5	186	変更なし		
	*19 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 (次頁へ続く)	3.73*5	186	355.6	(11.1)	STS42	*18 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 (次頁へ続く)	3.73*5	186	変更なし		
				355.6	(11.1)							
355.6				(11.1)								
*6 355.6				*6 (11.1)	*9 STS42 STS410							
			355.6	(11.1)	*9 STS410							
			355.6	(11.1)								
			216.3*10	(8.2)*10								

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材 料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材 料	
残留熱除去系	(前頁からの続き) 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点	3.73*5	186	355.6 / 355.6 / 318.5	(11.1) / (11.1) / (10.3)	*9 STS410	(前頁からの続き) 残留熱除去系熱交換器(B)バイパス配管合流点 ～ 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点					変更なし
	*19 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 ～ ドライウェルスプレイ注入配管B系分岐点	3.73*5	186	355.6 / 355.6 / 267.4	(11.1) / (11.1) / (9.3)	*9 STS410	*38 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 ～ ドライウェルスプレイ注入配管B系分岐点					変更なし
	*19 ドライウェルスプレイ注入配管B系分岐点 ～ 低圧代替注水系B系注入配管合流点	3.73*5	186	355.6 / 355.6 / 267.4	(11.1) / (11.1) / (9.3)	*9 STS410	*39 ドライウェルスプレイ注入配管B系分岐点 ～ 低圧代替注水系B系注入配管合流点					変更なし
	*19 低圧代替注水系B系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部(X-31B)	3.73*5	186	267.4 / 267.4 / —	(9.3) / (9.3) / —	*9 STS410	*40 低圧代替注水系B系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部(X-31B)	変更なし	267.4 / 267.4 / 114.3	(9.3) / (9.3) / (6.0)		変更なし
	*19 原子炉格納容器配管貫通部(X-31B) ～ 原子炉压力容器	8.62*5	302	267.4	(18.2)	*9 STS42 STS410	*40 原子炉格納容器配管貫通部(X-31B) ～ 原子炉压力容器	変更なし 10.34*7	変更なし 315*7			変更なし
	*26 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 ～ サブプレッションプール水冷却モードB系戻り配管分岐点	3.73*5	186	318.5 / 318.5 / 318.5	(10.3) / (10.3) / (10.3)	*9 STS42 STS410	*27 原子炉停止時冷却モードB系注入配管分岐点 ～ サブプレッションプール水冷却モードB系戻り配管分岐点					変更なし
	*26 サブプレッションプール水冷却モードB系戻り配管分岐点 ～ サブプレッションチェンバースプレイ注入配管B系分岐点	3.73*5	186	318.5	(10.3)	STS42	*28 サブプレッションプール水冷却モードB系戻り配管分岐点 ～ サブプレッションチェンバースプレイ注入配管B系分岐点					変更なし

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	
残留熱除去系	*26 サプレッションチェンバースプレ イ注入配管B系分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32B)	3.73*5	186	318.5	(10.3)	STS42	変更なし					
	—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32B)	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。				
	*26 原子炉格納容器配管貫通部 (X-32B) ～ E11-F020B	10.40*5	302	318.5	(25.4)	STS42	変更なし	変更なし	変更なし 315*7	変更なし		
	—						*3 E11-F020B ～ 残留熱除去系原子炉停止時冷 却モードB系注入配管合流点	3. 原子炉冷却系統施設 3.1 原子炉冷却材再循環設備 3.3.1 原子炉再循環系 (3) 主配管（常設） に記載する。				
—						*3 残留熱除去系原子炉停止時冷 却モードB系注入配管合流点 ～ 原子炉圧力容器						
*41 ドライウェルスプレイ注入配 管B系分岐点 ～ 原子炉格納容器代替スプレイ 冷却系B系注入配管合流点	3.73*5	186	267.4	(9.3)	STS410	*42 ドライウェルスプレイ注入配 管B系分岐点 ～ 原子炉格納容器代替スプレイ 冷却系B系注入配管合流点	変更なし					
—							3.73	186	267.4	(9.3)	STS410	

変更前						変更後					
名 称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	名 称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料
*41 原子炉格納容器代替スプレ イ冷却系B系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30B)	—					*42 原子炉格納容器代替スプレ イ冷却系B系注入配管合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30B)	3.73	186	267.4 / 267.4 / 165.2	(9.3) / (9.3) / (7.1)	STS410
	3.73*5	186	267.4	(9.3)	*9 STS410		変更なし				
—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-30B)	3.73	171 200*7	267.4 / 267.4 / —	(15.1) / (15.1) / —	STS410
—							7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。				
*36 サプレッションチェンバス プレイ注入配管B系分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213B)	3.73*5	186	152.3	*15 (25.0)	SF50A	*28 サプレッションチェンバス プレイ注入配管B系分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213B)	変更なし		変更なし		
			114.3	*15 (6.0)	SF50A		変更なし	変更なし 200*7			
			114.3	(6.0)	STS42						
104	114.3	(6.0)	STS42	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。							
—						*8 原子炉格納容器配管貫通部 (X-213B)	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。				
—							変更なし				
*43 サプレッションプール水冷却 モードB系戻り配管分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215B)	3.73*5	186	318.5	(10.3)	STS42	*35 サプレッションプール水冷却 モードB系戻り配管分岐点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215B)	変更なし 854*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし		
	427*5 (kPa)	104	318.5	(10.3)	STS42						
			318.5	(10.3)	STS42						
			318.5	(10.3)							
—	—	—	—	—	7. 原子炉格納施設 7.1 原子炉格納容器 (4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部 に記載する。						

残留熱除去系

残留熱除去系

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
残留熱除去系	*43 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215B) ~ サプレッションプール水冷却配管B系開放端	427*5 (kPa)	104	318.5	(10.3)	STS42	残留熱除去系	*35 原子炉格納容器配管貫通部 (X-215B) ~ サプレッションプール水冷却配管B系開放端	変更なし 854*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし
	*10 E11-F029B ~ 残留熱除去系ポンプ (B) 入口配管合流点	1.37*5	186	216.3	(8.2)	STS410		変更なし			
	*10 使用済燃料プールB系入口配管分岐点 ~ E11-F030B	3.73*5	186	216.3	(8.2)	STS410		変更なし			
	*11 残留熱除去系ストレーナ (C) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214C)	- [427] (kPa)	104	508.0	*10 (9.5)	SM41C		*37 残留熱除去系ストレーナ (C) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214C)	変更なし -[854]*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし
	*44 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214C) ~ 残留熱除去系ポンプ (C)	427*5 (kPa)	104	508.0	*15 (9.5)	SGV42		*37 原子炉格納容器配管貫通部 (X-214C) ~ 残留熱除去系ポンプ (C)	変更なし 854*7 (kPa)	変更なし 200*7	変更なし
				508.0	*15 (9.5)	SGV42 SGV410					
				508.0	*15 (9.5)	SGV410					
	*45 残留熱除去系ポンプ (C) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31C) (次頁へ続く)	3.73*5	100	508.0	*15 (9.5)	SGV410		*37 残留熱除去系ポンプ (C) ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31C) (次頁へ続く)	変更なし		
	508.0			*15 (9.5)	SGV410						
	318.5			(10.3)	STS410						

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	
残留熱除去系 残留熱除去系ポンプ(C) ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31C)	3.73*5	100	318.5	(10.3)	STS42 STS410	残留熱除去系 残留熱除去系ポンプ(C) ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-31C)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			318.5 /	(10.3) /	STS42							
			318.5 /	(10.3) /	STS42							
			—	—	—							
			318.5 /	(10.3) /	STS410							
			267.4 /	(9.3) /	STS410							
			267.4 /	(9.3) /	STS410							
267.4	(9.3)	STS410	原子炉格納容器配管貫通部 (X-31C) ～ 原子炉圧力容器	8.62*5	302	267.4	(18.2)	STS42 STS410	10.34*7	315*7	変更なし	
267.4	(18.2)	STS42										

- 注記*1 : 外径は公称値を示す。
 *2 : ()内は公称値を示す。
 *3 : 本設備は、既存の原子炉冷却材再循環設備（原子炉再循環系）であり、残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。
 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉再循環系から残留熱除去系ポンプ入口配管まで」と記載。
 *5 : S I 単位に換算したものである。
 *6 : エルボを示す。既工事計画書にはエルボを含めた管仕様を記載しているため、記載の適正化を行う。
 *7 : 重大事故等時の使用時の値。
 *8 : 本設備は、既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器（配管貫通部）であり、原子炉冷却系統施設の残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。
 *9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STS42」と記載。
 *10 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ストレナからサブプレッションチェンバ」と記載。
 *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書にはSTS410に注記「JISの旧記号STS42の新記号である」と記載。
 *13 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替循環冷却系、残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系、代替循環冷却系、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）、**残留熱除去系（サブプレッションプール水冷却モード）**）と兼用。
 *14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバから残留熱除去系ポンプ(A)・(B)まで(残留熱除去系ポンプ入口配管)」と記載。
 *15 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成3年6月19日付け資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-3-2-1 管の基本板厚計算書」による。
 *16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV42」と記載。
 *17 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ポンプ(A)・(B)から残留熱除去系熱交換器まで(残留熱除去系熱交換器入口配管)」と記載。
 *18 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）、**残留熱除去系（サブプレッションプール水冷却モード）**）と兼用。
 *19 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器から原子炉圧力容器まで(残留熱除去系熱交換器(A)・(B)出口配管)」と記載。
 *20 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器入口配管から残留熱除去系熱交換器(A)・(B)出口配管まで」と記載。

- *21：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系）と兼用。
- *22：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替循環冷却系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系，残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード），**残留熱除去系**（サブプレッションプール水冷却モード））と兼用。
- *23：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替循環冷却系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系，残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））と兼用。
- *24：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替循環冷却系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器代替スプレイ冷却系，代替循環冷却系）と兼用。
- *25：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系，代替循環冷却系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系，低圧代替注水系）と兼用。
- *26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器(A)・(B)出口配管から原子炉再循環系まで（原子炉冷却材戻り配管(A)・(B)）」と記載。
- *27：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード），**残留熱除去系**（サブプレッションプール水冷却モード））と兼用。
- *28：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））と兼用。
- *29：記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器(A)出口配管からドライウェルスプレイ管へ（ドライウェルスプレイ管入口配管(A)）」と記載。
- *30：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器代替スプレイ冷却系，代替循環冷却系，残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））と兼用。
- *31：エルボを示す。
- *32：本設備は，既存の原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ冷却系）であり，残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。
- *33：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェルスプレイ管入口配管(A)から原子炉圧力容器まで」と記載。
- *34：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉冷却材戻り配管(A)からサブプレッションチェンバへ」と記載。
- *35：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱除去系（サブプレッションプール水冷却モード））と兼用。
- *36：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉冷却材戻り配管(A)・(B)からサブプレッションチェンバスプレイ管へ」と記載。
- *37：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）と兼用。
- *38：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））と兼用。
- *39：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器代替スプレイ冷却系）と兼用。
- *40：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系，低圧代替注水系）と兼用。
- *41：記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系熱交換器(B)出口配管からドライウェルスプレイ管へ」と記載。
- *42：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器代替スプレイ冷却系，残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード））と兼用。
- *43：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉冷却材戻り配管(B)からサブプレッションチェンバへ」と記載。
- *44：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバから残留熱除去系ポンプ(C)まで」と記載。
- *45：記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ポンプ(C)から原子炉圧力容器まで」と記載。